

自然観察 NOW

NO : 53

野幌森林公園自然情報

発行 : 2021年2月4日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



◎冬の樹木の観察<冬芽と樹皮>

落葉して見渡しがよくなった冬の森は、木々の姿や野鳥の観察に絶好の季節となります。雪上では、動物の足跡も沢山見られます。そんな冬の森での楽しみ方の一つに、落葉した木々が何の木か当てることがあります。判断する手掛かりは、樹形（全体の形）や樹皮の様子、冬芽や枝への付き方等です。果実や種子が残っていれば、有効な判断材料となります。今回は、春早くに開花するカバノキ科4種類の樹木を、冬芽（花芽・葉芽）と樹皮に注目して紹介します。

◎雄花序、雌花序とは⇒雄花の集まりが雄花序、雌花の集まりが雌花序。

◎裸芽とは⇒冬芽の、葉や花を包んでいる鱗片がなく、むき出しになっているもの。

◎鱗芽とは⇒桜の冬芽のように、鱗片（葉等が縮小し鱗状になった）でカバーされているもの。

1. ケヤマハンノキ・毛山榛の木<カバノキ科ハンノキ属>

- (1) 分布・樹高・仲間⇒平地から山地に生える落葉樹。明るい場所を好む陽樹で、場所によっては小群生する。高さ15~20m、太さ30~50cm。この木は、根粒菌と共生して空気中の窒素を固定できるので紅葉しないで緑葉のまま落葉する。野幌森林公園のハンノキ属としては、他にハンノキなどがある。
- (2) 冬芽⇒この時期枝には、雄花序（雄花）と雌花序（雌花）と葉芽の3種類をつけている。雄花序は褐紫色で、長さ7~9cmの尾状で枝先に下垂する。雌花序は紅褐色で、長さ4mmで雄花序のすぐ近くの枝先につく。両方とも裸芽で、この時期は固く閉じている。葉芽は鱗芽で柄があり楕円状倒卵形。
- (3) 幹樹皮⇒灰褐色から黒褐色でなめらかで裂けない（平滑）、皮目がある。



<固い雌花序と雄花序>



<灰褐色でなめらかな樹皮>

2. シラカンバ・白樺<カバノキ科カバノキ属>

- (1) 分布・樹高・仲間⇒日当たりのよい場所や山火事跡地に生える落葉樹。裸地に一斉に生えるパイオニヤツリで、大沢口駐車場横や戦後開拓跡地で一斉林が見られる。高さ20~25m、太さ40~60cm。野幌森林公園のカバノキ属は、他にウダイカンバとヤエガワカンバなどがある。
- (2) 冬芽⇒この時期枝には、雄花序と花芽（雌花序と葉芽の混芽）と、葉芽をつけている。雄花序は黄褐色の尾状、長さ5~7cmで枝先に下垂、雌花序は花芽の中にあり、雄花序とは別の枝先につく。雄花序は裸芽、花芽（混芽）と葉芽は鱗芽。花芽は、5~6月に鱗芽を脱いで雌花序を直立させる。
- (3) 幹樹皮⇒幹は白色で、薄く紙状に横にはがれる。幹は白いが枝は黒色なので、黒い枝痕が幹に「へ」の字形で残っている。「白皮」がなまって、シラカバ（シラカンバ）となったとされている。



<雄花序と葉芽、果穂（種子）>



<白い樹皮と「へ」の字形枝痕>

3. アサダ・浅田<カバノキ科アサダ属>

- (1) 分布・樹高・仲間⇒山地に生える落葉樹。高さ 20～25m、太さ 40～50 cm。群生はしないが、沢沿いや尾根筋などよく見ると結構生えている。日本では、1 属 1 種の木なので仲間はいない。
- (2) 冬芽⇒この時期枝には、雄花序と花芽（雌花序と葉の混芽）と、葉芽をつけている。雄花序は黄褐色の尾状、長さ 5～7 cm で枝先に下垂。雌花序は花芽の中にあり、雄花序とは別の枝先につく。雄花序は裸芽、花芽（混芽）と葉芽は鱗芽。花芽（混芽）は、5 月頃に鱗芽を脱いで雌花序を上向きにつける。
- (3) 幹樹皮⇒暗褐色。浅く縦に裂け、短冊状に割れて下からそり返る。



<沢山の雄花序と果穂（種子）>



<短冊状に割れてそり返った樹皮>

4. サワシバ・沢柴<カバノキ科クマシデ属>

- (1) 分布・樹高・仲間⇒名前の通り沢沿いに多く生える落葉樹。高さ 10～15m、太さ 30～40 cm。群生はしないが、沢沿いでよく見られる。仲間は野幌森林公園にはないが、アカシデが南空知以南に分布。
- (2) 冬芽⇒この時期枝には、冬芽の状態で花芽（雄花序）と混芽（雌花序と葉）と、葉芽をつけている。全て鱗芽となっている。5 月頃に、それぞれ芽鱗を脱いで雄花序と雌花序は別々の枝先につく。開花した時は、雄花序は緑黄色で下垂、雌花序は緑色で葉が出る頃に咲く。
- (3) 幹樹皮⇒灰褐色から淡緑褐色で、菱形または不規則な鱗状に浅く裂ける。



<枝先の冬芽（雌花序と葉の混芽）> ャフーブログから



<浅く菱形に裂けた樹皮>

◎参考とした図書

- ・「北海道樹木図鑑」佐藤孝夫著・亜璃西社、「北海道の樹木」鮫島惇一郎著・北海道新聞社
- ・「北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫著、北大図書刊行会 ・その他 文責：阿部 徹